

火縄

木綿、竹、ヒノキなどさまざまな植物の繊維で作られた火縄（"スローマッチ"）は、燃えやすくするために塩硝で処理されることが多かった。一度火をつけると数時間はくすぶり続けるが、火打石や火種、あるいはよもぎのくすぶりを入れた容器などを携帯し、火縄が切れたときに再び火をつけることができた。（これらの火種の展示は以下）。

この『武器図説』の一コマには、さまざまな道具が描かれている。

- （1） 皮製の火縄銃ケース
- （2） 火縄の束
- （3） 5 寸（約 15cm）に切られた火縄
- （4） 砲手の横の地面に突き刺すことができる板の上で使用するために準備されたカットされた火縄
- （5） 火縄の火の部分を覆うためのキャップ

火縄の長さは軍によって異なるが、一人当たり 3 メートル以上の縄を手首や腕に巻いていることも珍しくはなかった。